様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：３３９１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００２９９

研究課題名（和文）石水博物館館蔵資料を中心とした伊勢商人の文化サロンに関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive research on Ise merchant cultural salons centered on materials from the Sekisui Museum

研究代表者
岡本　聡（OKAMOTO, SATOSHI）

中部大学・人文学部・教授

研究者番号：９０２８００８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：石水博物館は伊勢商人川喜田家と長井家の資料を一括して継承管理している。歴代当主は、書籍や絵画はじめ美術的価値の高いものを収集するに留まらず一種のサロン的文化を生み出していた。本研究は、約二万点の書誌データをほぼ網羅した冊子目録を作成しデータベースを構築して公開しその文化サロンを把握する事を目的とした。研究期間で仮のデータベースを構築した。研究期間に新たに得られた知見について報告書をまとめた。そこには、北村季吟関連の新資料の紹介や、本博物館の中核を為している、季吟門下村田元次父子の関連書目を紹介し、ここに集められた青木読書室関連の書目や、人情本の優品目録、及び北畠氏南朝関連の蔵書一覧を掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
石水博物館が所蔵している川喜田家と長井家の古典籍のように商人の蔵書がまとまった形で保管されている例はほとんどない。石水博物館資料を対象とした今回の研究は独自性が高いといえる。また川喜田家は豪商であり、非常に貴重で質のよい本が集まっている。三村竹清や林若樹などと当主に交流があるため彼らを経由して入った本は質が高い。加えて基本的に閲覧に供されていなかったため、保存状態がよい。黄表紙、伊勢俳諧、絵図や軸類などにも良質な資料が多く存在する。今回の研究には石水博物館の古典籍のデータベースの構築と、その内容分析を目的の一つとしている。データベースが完備していない状況では、その全貌を簡単に知る事が出来ない。

研究成果の概要（英文）：The Sekisui Museum inherits and manages the materials of the Ise merchant Kawakita and Nagai families. Successive owners have created a kind of salon-like culture, not just collecting books, paintings, and other items of high artistic value. The purpose of this study was to create a booklet catalog that covers almost 20,000 bibliographic data, build a database, and publish it to understand the cultural salon. A tentative data pace was constructed during the study period. We have compiled a report on the new findings obtained during the research period. There, we will introduce new materials related to Kigin Kitamura, and books related to the father and son of Kigin Kitamura, who is the core of this museum, and the books related to the Aoki reading room collected here. A list of excellent items of Ninjobon and a list of books related to Mr. Kitabatake's Southern Court are posted.

研究分野：近世和歌　俳諧

キーワード：伊勢商人　川喜多家　長井家　北村季吟　村田元次　人情本　山本読書室　北畠氏

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

三重県津市の石水博物館は、江戸時代に津や松坂に本拠を置き、主に江戸に大店をおいて活躍した伊勢商人川喜田家と長井家より伝わる資料を所蔵する。川喜田家と長井家の歴代当主は、文芸・芸術活動に自ら積極的に参加し、近世における文化的活動を支援し、書籍や絵画はじめ美術的価値の高いものを収集していた。また単なる収集に留まらず川喜田家や長井家といった伊勢の豪商が当時の重要な歌人・俳人・学者と交流し、一種のサロン的文化を生み出していた。川喜田久太夫家は、寛永年間より江戸の大伝馬町で木綿問屋を営んできた伊勢屈指の豪商であった。また、長井家は松坂湊町に本拠を構えた伊勢商人であった。昭和六年に長井家が松坂を去る際に、その蔵書や文書を十六代川喜田久太夫（半泥子）が購入し、現在に至る。

石水博物館の古典籍の調査・整理は、故岡本勝（愛知教育大学名誉教授）により、平成 7 年（1995 年）より行われている。岡本勝が代表者である基盤研究(B)「石水博物館所蔵の番付及び絵番付のデータベース作成」（1997-1999 年度、課題番号 09410112）はその成果の一つである。私も父岡本勝が平成 19 年（2007）年に亡くなってから、石水博物館の図書整理と簡易目録の作成に関わっている。また基盤研究(B)「江戸時代伊勢商人の文芸活動の研究―石水博物館(津市)所蔵文献資料を手がかりに」（2009-2012 年度、研究代表者安田文吉、研究課題番号 21320052）にも研究分担者として加わった。そのなかで、経済的な余裕を背景に文芸活動に力を注いでいた江戸時代の商人のなかでも、とりわけ伊勢商人の川喜田家と長井家は交友関係が広く、北村季吟と繋がりのある村田元次の資料や、本居宣長を初めとする国学者や堂上歌壇らと一種の文化サロンを形成していたことを強く意識するようになった。

石水博物館所蔵の書簡約 4000 点に関しては、科学研究費補助金助成事業「伊勢商人の文化的ネットワークの研究――石水博物館所蔵書簡資料をもとに」（研究代表者青山英正、2015～2020 年度）が行われ、研究分担者早川由美が参加していたが、調査結果が公開されているので今回の研究対象から除いた。よって、本研究では古典籍および書画、約 8000 点（長井家と合わせると 8500 点）を対象とした。

２．研究の目的

川喜田家と長井家では代々の当主が、文化的活動に熱心であったため、俳諧・和歌を残している点も注目できる。この研究によって伊勢商人の文芸活動の全貌が明らかになることも大きな成果といえよう。かつ写本類の調査により、文化人でもあった各代の当主と歌人・俳人・学者との交流が判明し、一種のサロン的文化の実態が解明され、総合的な把握が進むことが究極の目的である。

３．研究の方法

上記の目的達成に向けた研究のひとつは、データベースの構築とその分析を基盤にした研究、研究成果の発信である。川喜田・長井両家の文献資料約 2 万点の書誌データの分類作業をほぼ成し遂げた基盤研究(B)「江戸時代伊勢商人の文芸活動の研究-石水博物館(津市)所蔵文献資料を手がかりに」（2009-2012 年度、研究代表者安田文吉、研究課題番号 21320052）の研究成果をふまえ、同研究期間で成し遂げられなかったデータベースの全貌把握を行う。

平成 30 年(2018)からは本研究課題「石水博物館館蔵資料を中心とした伊勢商人の文化サロンに関する総合的研究」の科学研究費補助金を得て、この目録の刊行をめざして書誌カードのデータの漏れやデータ入力の際の誤りなどの点検を行った。石水博物館の協力を得て、書誌カードとデジタルデータの突き合わせの他、元資料の閲覧による確認を行うことが出来た。

代表者と分担者、協力者は、基本的には、ともに蔵書の悉皆調査をしながら、多くの書籍群を分類し、ここに集積された知を総合的に研究した。代表者も蔵書目録やデータベース作成をめざす為の舵取り役をし、和歌や俳諧など韻文全般を担当し、分担者の吉丸雄哉は、主に江戸後期の散文、洒落本や漢籍を含む研究、分担者の早川由美は、浮世草子など前期の散文を中心に、川喜田家を中心にした学芸の研究も担当した。

令和元年(2019)からは、学芸員として桐田貴史が研究協力者として加わり、千歳文庫の整理の中で新たに半泥子が別置していた書冊や石水博物館に寄贈された斎藤拙堂関連の書冊なども目録データに加えることが出来た。重要文化財となっている貴重書を含め、現時点で 8144 点の書籍データが仮目録として登録されている。

４．研究成果

2018 年度は、主に石水博物館の目録分類作業にあてられた。研究代表者及び研究分担者は、監修者である岡崎久司氏のかつての業績である『大英図書館蔵和漢書目録』や『大東急記念文庫』第二書目などの分類を元に、分類作業を行った。途中までは、この二つの目録を元に、分類記号を割り当て、原本確認をしながら、詳細に分類作業を行っていたのだが、それでは時間がかかりすぎる事に気付いた。そこで、おおむね国文学研究資料館の分類などを機械的に変換した後、『大英図書館蔵和漢書目録』や『大東急記念文庫』第二書目を元にした、石水博物館の分類により調整するという方法を用いた事により、ほぼ分類作業を終える事が出来た。今後は、この分類記号

によりソートをかけて、更にその分類の中で、年代順にソートをかける事により、目録の基礎データを作っていく作業に移行していくこととした。次年度は、主にこの目録の基礎データを元にしながら、出来る限り間違いを無くしていく方向で一つ一つのデータを調整していく作業が必要となる。またこの段階で、年代不明な著書のおよその年代を特定していく作業も必要となってくる。また、2018 年度、研究代表者は、『飛騨高山　地域の産業・社会・文化の歴史を読み解く』（林上編　風媒社、2018 年、第 10 章を担当）や、『芭蕉忍者説再考』（風媒社、2018 年）を著し、その中で、石水博物館蔵の伝頓阿作の人丸像や、石水博物館所蔵の茶書などを紹介している。また、研究分担者の早川由美氏は『俳諧水滸伝』から広がる俳諧ネットワーク」（平成 30 年 11 月全国大学国語国文学会『文学・語学』223 号）において、蒲生阿蔵という人物を紹介した。更に「紀上太郎作『志賀の敵討』の芭蕉―安永五年前後の俳壇と劇壇―」（平成 30 年 12 月 『名古屋芸能文化』28 号）を出し芭蕉伝と伊賀越の仇討とを綯交にした作品を紹介した。

2019 年度は、主に目録作成の分野を大東急記念文庫の目録及び大英図書館の目録で、配置していく事に時間を費やした。ただ、これにより伊勢商人の集めた蔵書の全体像や、その交友関係の書物などが見えて来た。ちょうど 2020 年 3 月までに、当博物館の文書の部を調査している「伊勢商人の文化的ネットワークの研究－石水博物館所蔵書簡資料をもとに－」(研究課題番号 15H03183)が終了し、書簡によってこの蔵書が為された人間関係がおおむね把握された。とくに十三代遠里、十四代石水の二代にわたる蔵書収集については、購入経路や代金までが明らかになったものがある。遠里と小津桂窓を始めとする伊勢の知識人たちとの書物の貸借などの書簡資料についても、書籍調査によって実証されることになる。こうした点で、全国に類を見ない資料群であるということができる。本科学研究費では、主に当館所蔵の書籍の目録を作成し、そのネットワークによって、どのような蔵書形成をなし得たか、また、どこからどのような書物が入ってきたかを量的質的に把握する事を目的としている。石水博物館の本は、伊勢商人が集めたものとして、町人文化の時代である江戸時代を把握するのに重要な資料が揃っている。特に、小津家と姻戚関係にある村田元次が親子三代で書写したものが、この文庫に入っている事は重要である。村田元次は、北村季吟ともつながりがあり、村田元次が書写したものの質的なものは、今後どのような人脈の中で書写したものか、分野はどのような分野のものが多いのかを含めて、把握しなければならない。全目録が一応入力された現段階では、その村田元次関連の蔵書の分野を把握し、これがどのような人脈の元で、この石水博物館に入ったか、また、それが小津家の姻戚である宣長にどのような影響を与えたかを把握する為に、全体像を捉える事は重要であるが、ほぼそれが出来る前段階まで、2019 年度は為す事が出来たものと考える。

2020 年度において、目録作成の方は、最終段階の全体のチェックの段階に入った。コロナの関係で、大東急記念文庫の目録や大英図書館の目録に関わった岡崎久司の原本を見ながら確認するという作業が出来なくなってしまったので、科学研究費の期間内での目録の刊行という事は不可能になった。それぞれの研究実績としては、研究分担者の早川由美が、もう一つの書簡の科研費(「伊勢商人の文化的ネットワークの研究‐石水博物館所蔵書簡資料をもとに‐」研究課題番号 15H03183)との関連で出版した『石水博物館所蔵　小津桂窓書簡集』(和泉書院　2021)が最も大きな業績であると言えよう。この書簡集の紹介により、石水博物館全 8000 点の書籍の内のおよそ十分の一にあたる 800 点ほどの資料が、小津桂窓との関係の中で、有機的に捉える事が可能になった。また、早川氏による口頭発表「『石水博物館所蔵小津桂窓書簡集』中の演劇記事」(東海近世文学会令和 2 年 12 月例会）及び「並木五瓶『入間詞大名賢儀』の当代性‐小津桂窓書簡を手がかりに‐」（演劇研究会令和 2 年度 3 月例会）ももこの成果によるものである。また、もう 1 人の分担者である吉丸雄哉も同じく石水博物館の資料から「川喜田石水の教訓歌」『人文論叢』（三重大学人文学部文化学科研究紀要 38、2021 年 3 月)を出している。研究代表者の岡本聡は、石水博物館にもその関連資料がある木下長嘯子の『挙白集』について、「『挙白集』評釈（三）巻八」及び「『挙白集』評釈（四）巻九」（『近世文芸　研究と評論』98 号、99 号）を発表した。また、石水博物館にある多くの本草学絡みの資料を参照しながら、『和食文芸入門』（臨川書店 2020）に「食べる牡丹から観る牡丹へ‐蕉門の牡丹狂騒曲‐」を書いた。またその延長線上で、「宣長と牡丹‐「漢心」批判への一視点‐」(『アリーナ』23 号、2020 年 10 月）を書いた。

以上の成果を基に、最終年度である 2021 年度までに、大東急記念文庫の目録を参考にデータを分類し、今後書冊体の目録にする為の基礎的な作業をなし終えた。また本研究の総括として、既述の仮データベース(8144 点登録)の他、本研究期間に新たに得られた知見について、『伊勢商人の文化サロンに関する総合的研究(研究課題番号 18K00299)研究成果報告書』と題し、中部大学出版より印刷発行した。目次は以下のようになっている。

【目次】


・石水博物館について　1
・研究の概要　岡本　聡　3
・伊勢商人の文芸活動―川喜田家長井家当主を例に―　早川由美　6
・研究報告　各論
・『詩歌法眼季吟七十賀』影印・翻刻　宮川真哉・岡本　聡　12
・『詩歌法眼季吟七十賀』解題　岡本　聡　23
・村田一族写本一覧　岡本　聡　38
・『三鳥』影印・翻刻　岡本　聡　44

・石水博物館蔵『三鳥』をめぐって
　―季吟より芭蕉への「三鳥」伝授―　岡本　聡　50
・山本読書室と石水博物館
　―山本読書室関連資料を読む―　早川由美　57
・北畠氏の歴史考証と川喜田家の蔵書
　―斎藤拙堂『伊勢国司記略』を事例に―　桐田貴史　70
・石水博物館所蔵人情本目録稿　吉丸雄哉　97
・十五代政豊の文事―興画合注釈の作成―　早川由美　110

本書には、北村季吟関連の新資料の紹介や、本博物館の中核を為している、季吟門下村田元次父子の関連書目を紹介し、ここに集められた青木読書室関連の書目や、人情本の優品目録、及び北畠氏南朝関連の蔵書一覧を掲載した。研究目的で記したように、石水博物館の全貌を示す書誌データの分析から川喜田家、長井家をめぐる文芸活動と文人達とのつながりの一端を総合的に把握する事が出来たものと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　11件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>岡本聡 | ４．巻<br>100 |
| ２．論文標題<br>『挙白集』評釈(五)巻十 | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>『近世文芸研究と評論』 | ６．最初と最後の頁<br>87-147 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>早川由美 | ４．巻<br>第29号 |
| ２．論文標題<br>「芝居を読書すること―小津桂窓書簡中の演劇記事を手がかりに―　」 | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>『東海近世』(東海近世文学会) | ６．最初と最後の頁<br>28-43 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>早川由美 | ４．巻<br>第47号 |
| ２．論文標題<br>「小津桂窓書簡から見る『入間詞大名賢儀』―芝居を読むこと―」 | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>『演劇研究会会報』（演劇研究会） | ６．最初と最後の頁<br>13-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉丸雄哉 | ４．巻<br>4 |
| ２．論文標題<br>書評「平山優『戦国の忍び』」 | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>「忍者研究」 | ６．最初と最後の頁<br>47-48 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吉丸雄哉 | 4．巻<br>1 |
| 2．論文標題<br>「アナログ忍者ゲームの世界」 | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>『忍者学研究』中央公論新社 | 6．最初と最後の頁<br>59-81 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岡本　聡 | 4．巻<br>98 |
| 2．論文標題<br>『挙白集』評釈(三)巻八 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>『近世文芸研究と評論』 | 6．最初と最後の頁<br>98-179 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岡本　聡 | 4．巻<br>99 |
| 2．論文標題<br>『挙白集』評釈(四)巻九 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>『近世文芸研究と評論』 | 6．最初と最後の頁<br>61-122 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岡本　聡 | 4．巻<br>1 |
| 2．論文標題<br>「食べる牡丹から観る牡丹へ‐蕉門の牡丹狂騒曲‐」 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>臨川書店『和食文芸入門』 | 6．最初と最後の頁<br>169-187 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岡本　聡 | 4．巻<br>23 |
| 2．論文標題<br>「宣長と牡丹‐「漢心」批判への一視点‐」 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>『アリーナ』(中部大学) | 6．最初と最後の頁<br>585-592 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>早川由美 | 4．巻<br>46 |
| 2．論文標題<br>「『傾城島原蛙合戦』の構想‐奥州合戦という設定‐」 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>『演劇研究会会報』 | 6．最初と最後の頁<br>27-37 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吉丸雄哉 | 4．巻<br>38 |
| 2．論文標題<br>「川喜田石水の教訓歌」 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>『人文論叢』（三重大学人文学部文化学科研究紀要） | 6．最初と最後の頁<br>1 - 14 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岡本　聡 | 4．巻<br>96 |
| 2．論文標題<br>『挙白集』評釈(一)巻六 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>『近世文芸研究と評論』 | 6．最初と最後の頁<br>99-177 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岡本聡 | 4．巻<br>97 |
| 2．論文標題<br>『挙白集』評釈(一)巻七 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>『近世文芸研究と評論』 | 6．最初と最後の頁<br>109-160 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岡本聡 | 4．巻<br>2 |
| 2．論文標題<br>「伊勢俳壇と芭蕉」 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>『三重県史　通史編』近世編 | 6．最初と最後の頁<br>635-651 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>早川由美 | 4．巻<br>27 |
| 2．論文標題<br>「石水博物館蔵『殺報転輪記』の位置づけ―第一次『殺報転輪記』の改訂過程―」 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>『東海近世』 | 6．最初と最後の頁<br>13-26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吉丸雄哉 | 4．巻<br>37 |
| 2．論文標題<br>安政の大地震と一四代目川喜田石水の情報網:石水博物館蔵『はなしの種』について | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>文論叢（三重大学人文学部文化学科研究紀要） | 6．最初と最後の頁<br>17-26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>早川由美 | ４．巻<br>223号 |
| ２．論文標題<br>『俳諧水滸伝』から広がる俳諧ネットワーク | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>文学・語学 | ６．最初と最後の頁<br>p121～p130 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>早川由美 | ４．巻<br>28号 |
| ２．論文標題<br>紀上太郎作『志賀の敵討』の芭蕉―安永五年前後の俳壇と劇壇― | ５．発行年<br>2018年 |
| ３．雑誌名<br>名古屋芸能文化 | ６．最初と最後の頁<br>p37～p51 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本聡 |
| ２．発表標題<br>「石水博物館蔵長嘯子関連の狂歌資料をめぐって」 |
| ３．学会等名<br>日本近世文学会140回大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本聡 |
| ２．発表標題<br>「食べる牡丹から観る牡丹へ」 |
| ３．学会等名<br>俳文学会シンポジウム |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本聡 |
| ２．発表標題<br>「芭蕉紀行文と藤堂家」 |
| ３．学会等名<br>東洋文化振興会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本聡 |
| ２．発表標題<br>「南方熊楠の死生感」 |
| ３．学会等名<br>新時代の日本を考える兵庫フォーラム |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>早川由美 |
| ２．発表標題<br>「書物としての芝居 ――小津桂窓書簡中の演劇記事を手がかりに――」 |
| ３．学会等名<br>日本近世文学会140回大会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>早川由美 |
| ２．発表標題<br>「『くまなき影』興画注釈をめぐって―幕末の粋興人平井竹馬と川喜田家十五代政豊の交流―」 |
| ３．学会等名<br>東海近世文学会十二月例会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>早川由美 |
| ２．発表標題<br>「『石水博物館所蔵小津桂窓書簡集』中の演劇記事」 |
| ３．学会等名<br>東海近世文学会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>早川由美 |
| ２．発表標題<br>「並木五瓶『入間詞大名賢儀』の当代性‐小津桂窓書簡を手かがりに‐」 |
| ３．学会等名<br>演劇研究会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>早川由美 |
| ２．発表標題<br>「『傾城島原蛙合戦』の構想―奥州合戦という設定―」 |
| ３．学会等名<br>演劇研究会　令和元年十二月例会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉丸雄哉 |
| ２．発表標題<br>「安政の大地震と川喜田石水の情報網―石水博物館蔵『はなしの種』について―」 |
| ３．学会等名<br>東海近世文学会４月例会（第２８４回） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>早川由美 |
| ２．発表標題<br>川喜田潭空をめぐる嵯峨野文化圏―馬杉亨安等書簡と小沢蘆庵自筆六帖詠藻を手がかりに― |
| ３．学会等名<br>東海近世文学会例会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

〔図書〕　計4件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>早川由美 | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>和泉書院 | ５．総ページ数<br>248 |
| ３．書名<br>『石水博物館所蔵　小津桂窓書簡集』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>岡本聡、林上、末田智樹、大塚俊幸、紅谷正勝 | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>風媒社 | ５．総ページ数<br>388 |
| ３．書名<br>『飛騨高山-地域の産業・社会・文化の歴史を読み解く-』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>岡本聡 | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>風媒社 | ５．総ページ数<br>129 |
| ３．書名<br>『芭蕉忍者説再考』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>岡本聡、大門正幸、金政真、越川次郎、井上徳之 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>三恵社 | ５．総ページ数<br>110頁 |
| ３．書名<br>『南方熊楠研究　文理を超えた視点からのアプローチ』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 吉丸　雄哉<br>(YOSHIMARU KATSUYA)<br>(10581514) | 三重大学・人文学部・教授<br>(14101) | |
| 研究分担者 | 早川　由美<br>(HAYAKAWA YUMI)<br>(30745310) | 奈良女子大学・大学院人間文化総合科学研究科・博士研究員<br>(14602) | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|